

2023年7月14日

熊本県知事 蒲島 郁夫 様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼 香代子・市花 保
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

安心・安全部会における山田川復興計画案に関する申入れ

日頃は県民のためにご尽力くださることに、敬意を表します。

2021年11月4日以来、私たちは蒲島知事に対し、球磨川流域豪雨災害において何が被害を拡大させたのかを探るための共同検証の申入れを断続的に行ってきました。私たちが現地を歩き数百名以上もの被災者に体験談を伺い、数千枚に及ぶ映像の収集・解析を行う中で、二度で終結した球磨川豪雨検証委員会では全く言及されていない被害拡大要因となった論点（支流氾濫のメカニズム、第四橋梁問題）が、明らかになったためです。

しかし県は、2020年10月時点のデータを根拠に共同検証を拒否し続け、その信憑性を明示する関連資料を共有されてもいないまま国交省のデータを鵜呑みにして独自の調査を行うことも怠っていることが、2023年3月13日の申し入れ時の発言から明らかになりました。くわえて、6月20日に人吉市中心市街地復興まちづくり協議会安心・安全部会で県は、それまで被災者や市民が指摘していた山田川の氾濫メカニズムを無視した資料を提示しました。

県のこうした対応に対し、これまで申入れを通して「双方向コミュニケーション」を重視した「流域のあらゆる関係者が協働して行う川づくり」を志向していた私たちは、非常に幻滅させられています。

そもそも、球磨川豪雨災害における氾濫と被害の拡大メカニズムは本流からのバックウォーターのみで説明できるものではないことが、私たちの調査のみならず、専門家からも言及されています。たとえば、「クローズアップ現代 大水害から命を守れ！“内水氾濫”あなたの街の危険度マップ」（2023年6月12日放送）では、内水や支流からの氾濫がはるかに早い時間帯にあちこちから同時多発で始まって逃げ道を閉ざしたことを、河川工学者・福岡捷二氏が指摘しています。くわえて、とりわけ山田川をめぐっては、上流域の開発や連続堤防、鬼木川との合流点以降の川幅や形状が、被害拡大にどう影響しているのか検証する必要があることを、周辺住民や手渡す会はこれまでも繰り返し求めてきました。こうした経過を無視した振る舞いを熊本県が行うことに対し、いったいどこが「創造的復興」なのか、と疑問を禁じ得ません。

以上を踏まえ、下記申し入れます。

記

1. 2023年6月20日の安心・安全部会で、検証委では不問とされた被災現場での事実やこれまでの申入れの経過を踏まえることなく山田川の河川改修案を提示したのは、いかなる理由か。その合理性・公正性を、行政手続きの基本であるプロセスの透明性が確保されたかたちで説明すること

2. 3月13日申入れにおける県の回答「第四橋梁が下流の洪水に影響を全く与えなかったとは思わない」の根拠となる資料の詳細を、明示すること。なお3月13日にも明言した通り、検証委や学識者会議で提示された資料は既に確認済みであり、その不備を指摘し続けてきた。異動を踏まえた十分な引継ぎのもと、発言の根拠となる県独自の資料を提示すること

以上

問合せ先：

手渡す会事務局長 木本 雅己